

## 学術情報センターだより第2号（図書館報 YPU Library 第21号）

発行：2016年12月1日

山口県立大学学術情報センター  
電話（内線）5475  
e-mail: gakujo@yamaguchi-pu.ac.jp

山口県立大学図書館  
電話（内線）5791  
e-mail: lib@sakura3.yamaguchi-pu.ac.jp

### 新しい大学図書館を目指して

学術情報センターを開設して8ヶ月たちました。この間、新3号館の実施設計に関連して、新しい図書館をどのような空間にするか検討する機会をいただきました。

新しい大学図書館づくりについては、今から6年前、2010年（平成22年）に出された「大学図書館の整備について（審議のまとめ）ー変革する大学にあって求められる大学図書館像ー」がひとつの指針を示しています。急増する電子ジャーナルや電子書籍、電子図書館などへの対応に加え、大学図書館がより積極的に教育支援に力を入れる必要があると述べ、次の2点に力を入れるよう提言しています。

- ・学習支援：学生が自ら学ぶ学習の重要性が再認識され、ラーニング・コモンズ、大学図書館職員等によるレファレンスサービス、学習支援が重要。
- ・教育活動への直接の関与：情報を探索し、分析・評価し、発信するスキルを一層高める情報リテラシー教育は、大学図書館が主体となって取り組むことが求められており、カリキュラム開発や実施を教員と協同して行うだけでなく、図書館職員が教員を兼任するなどして、直接授業を担当することも視野に入れるべき。また、e-Learningへの貢献が期待される。

本学における今後の図書館整備については、施設設備のハード面だけでなく、上記のような教育支援についても検討をしていきたいと考えています。

まずは、社会福祉学部・看護栄養学部・健康福祉学研究科の先生方や学生を対象として、試行的に電子書籍を使っていただくサービスの利用を開始しました。図書館に貸し出し用パソコンやタブレットも入れています。

図書館を利用する学生が主体的に楽しく学べるよう、工夫をしていきたいと思えます。

（学術情報センター所長・図書館長：岩野雅子）

### 学生による選書ツアー

図書館では、「学生の学生による学生のための選書」と題して、「選書ツアー」を企画・実施しています。「選書ツアー」とは、簡単に言うと、「図書館に所蔵して欲しい本を、学生の皆さんが、図書館員と一緒に書店に選びに行く」と言う企画です。選ばれた図書は学生からの人気も高く、よく貸出されています。

今年は読書週間中の10月30日（日）に選書ツアーを実施しました。

今回は福岡市天神にあるジュンク堂書店にて、看護学科を除く各学科の学生計23名と一緒に、読みたい本、図書館に備え付けてほしい本、友達に読んでもらいたい本などを約4時間かけて選び、好評のうちに終了しました。多数の参加者から、次回も参加したいとの声があり、充実した選書ツアーになったようです。

学生の皆さんが選書した図書は 283 冊でした。すでに図書館で所蔵しているものを除き、学生選書図書として購入後、学生選書コーナーを設けて展示します。

また、参加した学生の皆さんに、それぞれ特におすすめの図書の POP を作成してもらい紹介していますので、ぜひご覧ください。なお、看護学科については事前の希望を踏まえ、職員が選書しました。  
(学術情報センター管理室長：松田和也)

## 選書ツアーに参加して

「自分の目で選んだ図書を大学図書館に置いてもらえる」と聞いて、今回の選書ツアーに参加しました。本は普段の学習の助けとなるだけでなく、心の栄養にもなります。大学図書館にも多くの図書が所蔵されていますが、学生それぞれの関心に応じて手に取る図書が違います。また学生は、経済的にも本をたくさん揃えることができません。その中で、学生自身が読みたい本を選べるということに、魅力を感じました。



所属する学科関連の図書から自分の関心分野の図書まで自由に選べ、広い書店でじっくりとあらゆる分野のコーナーを歩き来し、好みの図書を選ぶのは、とても充実した時間でした。さらに自由時間もあり、私は個人的に興味のある本を購入したり、休憩したりと、ツアーを満喫しました。自分の選んだ図書を多くの人に読んでほしいです。  
(看護栄養学部 栄養学科 3年 井上智香子)

## 科研費の申請を終えて

10 月末に科学研究費助成事業に係る日本学術振興会への申請手続きが完了しました。教職員の皆様方のご協力をいただきまして、滞りなく申請手続きを進めることができました。改めてお礼を申し上げます。

学術情報センターは、旧研究教育推進室の発展的改組により、本年、新たな組織として業務を開始しました。科研費申請に関わる研究者支援につきましても、本年は、本学における従来の取り組みを踏まえつつ、新たな取り組みも行いました。例えば、申請書のピアレビューにつきましても、実施の範囲を拡張するとともに、レビューの方法にも工夫を施しました。

科研費申請に関わる当センターの今回の取り組みについては、教員の皆様方より一定の評価をいただきましたが、改善が必要と考えられることもあります。今後は、業務の一層の充実に向けて取り組んでまいりますので、来年度の申請の際にも当センターの支援をご活用いただけましたら幸いです。

(研究支援部門長：上白木悦子)

## これからの学内ネットワーク

北キャンパスでは、学術情報へのアクセスを簡便化する環境整備を通じて学内のすべての場所をラーニング・コモンズ化することを目指しています。

無線 LAN を基本とした、いつでもどこでもネットワークへの接続ができる環境を用意し、取得した情報もまたどこでも印刷できるようオンデマンドプリンティングの仕組みを構築してゆく予定です。キャンパスのどこでも学習ができる環境を学生へ提供することで、主体的な学習をサポートする環境整備に注力します。

キャンパス内の各所で、ホワイトボードやテーブルに集い話し合いをしている学生の姿を思い描きつつネットワークの整備を行っています。

学術情報の電子化が進み、インターネットへの接続が図書館へのアクセスと同義になることを見越した、公立大学の中でも先進的なネットワークが北キャンパスに出現する予定です。

(情報基盤部門長：畔津忠博)

### 教員から「一押し!」: 学生に読んでほしいお勧めの本を紹介します

各学科の先生方に、学生の皆さんに読んでほしい「一押し」の本をご紹介いただき、図書館ならびに看護棟図書室に展示をします。今回は各学科から2名ずつ、計10名の先生にお願いしました。

国際文化学科：田中 菜採先生

書名：『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か』

著者：白井 恭弘(著)

発行者：岩波書店

発行年：2008年

おすすめポイント：「何年も何年も英語を勉強しているのに、全然上達しないのはなぜなんだっ?!」という疑問、怒り、焦り…を感じている皆さんにぜひ目を通してもらいたい1冊です。なぜ日本人は英語ができないのかという問題や言語学習のメカニズムに対して、科学的な根拠や研究結果をもとに考察されています。アメリカの大学教授である筆者の、言語学習にまつわるエピソードも意外性たっぷりです。本の最後の、効果的な外国語学習法は今後の皆さんの外国語学習に役立つと思います。

優れた学習者の特質の1つに「学習プロセスを意識する」があるそうです。この本から外国語の学習プロセスを学び、優れた外国語学習者への一歩を踏み出してください。

国際文化学科：西脇 靖洋先生

書名：『International Migration: A Very Short Introduction』

著者：Khalid Koser(著)

発行者：Oxford University Press

発行年：2007年

おすすめポイント：The principal aim of this work is to explain some essential features of international migration after WWII, with a special focus on its relationships with the tendency towards globalization. We can find a number of case studies on immigration and emigration around the world. However, few of them tell us explicit causal relations between international migration and globalization that are applicable to various continents, countries, and regions. In contrast, this volume has some useful theoretical deductions concerning these. The greater part of this book is relatively easy to comprehend even for Japanese students who do not have a particularly good command of English.

文化創造学科：小橋 圭介先生

書名：『色と創造』

著者：藤村 克裕(著)

発行者：角川学芸出版

発行年：2011年

**おすすめポイント**：専門書というよりはエッセイに近いかもしれません。思わず、ニヤッと笑ってしまうこともしばしばです。学術的な話ばかりでなく、身近にある色彩の魅力について語られるため、堅苦しくなく読み易いです。

本書の冒頭に、「不思議なことだが、色彩について考えれば考えるほど、色彩を享受することから遠ざかっていることに気付く」とあります。これは「色彩」に限った話ではありません。物事について考え見識を深めることは大切ですが、その一方で、理論や理屈よりも「やった方が早い」、「やってみないと分からない」ということもあります。本を読んで知識を蓄えたら、手を動かしながら考えてみましょう。「体験」に勝る「知識」はありませんよ。

文化創造学科：渡邊 滋先生

書名：『思考の整理学』

著者：外山 滋比古(著)

発行者：筑摩書店

発行年：1986年

**おすすめポイント**：高校までの「勉強」とは、おおざっぱに言えば、教科書などに載せられた「知識」を一方向的に吸収する行為です。これに対して大学に入ると、自らさまざまな材料を集め、それに関する考えをまとめる作業が求められるようになります。

多くの学生は、このような求められる作業の質的な転換に、戸惑いを覚えるようです。そうした時に、本書を読むことで、単に人から与えられる「知識」をインプットする作業で終わらず、自分自身の発想をどのように広げていくのか、その取っ掛かりを得ることができるはずです。このロングセラーに目を通して、独自の発想でレポートや卒業論文を書けるようになってください。

社会福祉学科：角田 憲治先生

書名：『命の格差は止められるか：ハーバード日本人教授の、世界が注目する授業』

著者：イチロー・カワチ(著)

発行者：小学館

発行年：2013年

**おすすめポイント**：富裕層と貧困層とでは、どちらが太っている人が多いでしょうか？お金持ちの方がたくさん食べて、太っているように思えるかもしれません。

しかし、肥満につながる炭水化物や脂質（ジャンクフードなど）は、手軽に安価に入手できるため、実際は、富裕層に比べ貧困層の方が肥満の割合が高く、様々な疾患になる可能性が高いのです。経済的な格差は、健康の格差につながり、そしてその格差は、子、孫の世代に受け継がれます。

この格差問題に関する世界的権威であるハーバード大学のイチロー・カワチ教授が、世界中の格差

研究をまとめ、わかりやすく解説したのがこの本です。

かつて一億総中流社会と呼ばれた日本でも徐々に格差が広がっています。

これからの福祉、医療に携わるみなさんに、ぜひ手に取って読んでもらいたい一冊です。

社会福祉学科：廣田 智子先生

書名：『100万回生きたねこ』

著者：佐野 洋子(著)

発行者：講談社

発行年：1977年

**おすすめポイント**：この絵本の主人公は、100万回死んで100万回生き返ってきたねこです。ねこは生まれ変わるなかで多くの飼い主に愛されますが、ねこが誰かを愛することは一度もありませんでした。しかしあるとき、白いねこを愛し、子どもをつくります。そして「白いねことたくさんの子ねこを、自分よりもすき」になります。白いねこが死ぬとねこは泣き続け、そのとなりでしずかに動かなくなりました。その後、生き返ることはありませんでした。

読み終わると、「生き返らなくてよかった」「きちんと死ねてよかった」という気持ちになります。死は悲しいものですが生をまっとうすることでもあるのだと、生と死について考えさせられる一冊です。興味をもった方は、『死生学1 死生学とは何か』（島菌進・竹内整一編、東京大学出版会、2008年、pp. 235-。）なども読んでみてください。

看護学科：田中 周平先生

書名：『アルジャーノンに花束を』

著者：ダニエル・キイス(著)、小尾 芙佐(訳)

出版社：早川書房

発行年：1989年

**おすすめポイント**：読書家ではない私が学生のみなさんにお勧めする本はちょっと古いSF小説です。この小説が原作のドラマがテレビで放映されたこともあるので多くの方がご存知かもしれません。

今回は私が学生の時に読んだ思い出深い本を紹介することにしました。

1950年代のニューヨークを舞台に、知的障害を持つ主人公が手術によって突然天才となりますが、それによって今まで感じることのなかったさまざまな感情を抱くこととなります。障害の有無に関わらず人間は人間であって、「人」として扱ってほしいという主人公の思いを繊細に描いた物語です。結末は決してハッピーエンドではないのですが、「人」として何が大切なのか？生きるとは何か？幸福とは何か？ということを考えさせられる内容です。特に、「人」を対象とする職業を目指している学生のみなさんはこのようなことを自問自答することも大切なのではないのでしょうか。そんなきっかけになる本だと思います。

ちなみにタイトルにある『アルジャーノン』は主人公の名前ではありません・・・。

看護学科：空田 朋子先生

書名：『電池が切れるまで ～子ども病院からのメッセージ～』

著者：すずらんの会(編)

発行者：角川文庫

発行年：2007年

おすすめポイント：「食べたいと思える 食べれる 眠たいと思える 眠れる (中略) そう すべてが幸せ」

これは、子ども病院に長期入院し、病気と闘っていた子どもさんの文章の一部です。

この他にも本のタイトルにもなっている、人の「命」を「電池」に例えた有名な文章もあります。

入院中の子ども達の素直でまっすぐな気持ちが良く分かる本で、私の中ではとても印象強く残っている本です。

看護を目指す学生さんもそうでない学生さんも、小さな身体で一生懸命、病気と闘う子ども達の気持ちに触れてみませんか？

きっと何か「今を生きる」ヒントになるかもしれませんよ。

栄養学科：山崎 あかね先生

書名：『人生最後の食事』

著者：デルテ・シッパー(著)、川岸 史(訳)

発行者：シンコーミュージック・エンタテイメント

発行年：2011年

おすすめポイント：この本は、ドイツのハンブルクにあるホスピスで料理長と入居されている方々に密着取材をして書かれたドキュメントなのですが、小説を読んでいるかのように話に引き込まれてしまいます。「人の寿命を延ばすことはできないが、一日を豊かに生きる手伝いはできる」をモットーとしているこのホスピスで、入居者と真摯に向き合う料理長の作る料理は、食べた人の幸せな記憶をよみがえらせるような一皿です。料理長が試行錯誤しながら、入居者の記憶の中の味を再現しようと奮闘する姿は心打たれますし、「食」の大切さについても考えさせられます。なじみのないドイツ料理も出てきますが、巻末に料理の解説もついていきますし、その料理について調べる楽しさも生まれますよ。

栄養学科：繁田 真弓先生

書名：『佐々木敏の栄養のデータはこう読む！疫学研究から読み解くぶれない  
食べ方』

著者：東京大学大学院教授 佐々木 敏(著)

発行者：女子栄養大学出版部

発行年：2015年

おすすめポイント：トランス型脂肪酸と飽和脂肪酸どちらに注意すべき？コレステロールが「高い」「低い」長生きはどちら？健康問題、第1位はタバコ、第2位は？「早食いは太る」は本当か？「朝食をとらないと太る」はなぜ？お酒に適量はあるか？糖質制限と脂質制限、やせるのはどちらか？などなど…、世界中の研究論文の中から厳選された図(グラフ)を基に、EBN(evidence-based nutrition) :

根拠に基づく栄養学)の流れに沿って、健康と栄養について科学的な考え方や判断ができるように大変分かりやすく解説された一般書です。栄養の楽しさ、奥深さ、難しさ、大切さに触れられると思います。栄養を専門とする方にもそうでない方にもお勧めの一冊です。

**学術情報センターからも「一押し!」: 学生に読んでほしいお勧めの本を紹介します**

学術情報センター所長・図書館長：岩野 雅子先生

書名：『<sup>ライフ シフト</sup>LIFE SHIFT:100年時代の人生戦略』

著者：リンダ・グラットン、アンドリュー・スコット(著)，池村千秋(訳)

発行者：東洋経済新報社

発行年：2016年

**おすすめポイント**：ロンドン・ビジネススクールの2名の研究者が詳細なデータをもとに、世界的に長寿化する次世代の人生設計について触れ、大きく変革する100年人生時代をいかに生きるかについて多方面からの示唆を与えています。1945年生まれのジャック、1971年生まれのジミーまでの世代は教育・仕事・引退という3ステージモデルがあてはまりますが、1998年生まれのジェーン(すべて仮称)は新たなステージを加えた4ステージあるいは5ステージモデルを想定して、お金や時間、仕事や結婚、人間関係や健康、知識やスキルといった人生の「資産」を管理し、私生活を切り拓いていく必要があります。キーワードは自己意識と、社会制度の変革と多様性。

変化は起こりつつあります。余暇を娯楽(リクリエーション)ではなく、自己再創造(リ・クリエーション)のために使うことで、変身資産を増やし、マルチな自分づくりが必要になります。長寿は贈り物。長い人生を心身ともに若々しく生きる具体的な視点を与えてくれる本です。読まないで損!

研究支援部門長：上白木 悦子先生

書名：『わたしを離さないで』

著者名：カズオ・イシグロ(著)，土屋 政雄(訳)

出版社：早川書房

発行年：2008年

**おすすめポイント**：映画化されたことで話題になった作品ですが、生命倫理に関わるさまざまな問題を考えさせてくれる書籍です。訳本も面白いですが、機会があれば原著にも挑戦してみてください。著者のカズオ・イシグロは、日本と英国の2つの文化背景を持ち、英国でのソーシャルワーカーの経歴を持ちます。原著ではその著者独自の文章を楽しむことができます。同じく生命倫理の問題を考えるものとして、『私の中のあなた』ジョディ・ピコー著・川副智子訳(早川書房、2009年)も読みやすい本です。

情報基盤部門長：畔津 忠博先生

書名：『情報理論』

著者名：甘利 俊一(著)

出版社：筑摩書房

発行年：2011年

**おすすめポイント**：我々は情報という言葉が普段使用していますが、それは色々な意味で使われているため、きちんと説明するのは難しい面があります。このとき、情報という考えを数値化して定量的に説明する方法があります。この本では、その手段や概念を具体的な例に基づいて優しく解説してくれています。例えば、情報を得るということを、多くのものの中から、ある1つのものを特定するということにすると、この過程で情報量を確率という考え方に基づいて定義することができます。専門的な内容も含まれていますが、最初の第1章だけでも十分おもしろいと思います。

図書館司書：町田 敬一郎さん

書名：『読書について』

著者：ショーペンハウアー(著)，鈴木 芳子(訳)

発行者：光文社

発行年：2013年

**おすすめポイント**：荒川洋治の書いた『過去をもつ人』（みすず書房 2016年）を読みました。その中にショーペンハウアーの『読書について』が紹介されています。名前は知っていても著作を読んだことはありません。きっと難しいことが書かれているに違いありません。しかし、この著作には自分の頭で考える、読書についてなど示唆に富むことが平易に書かれています。

詩人が「いまは一般的読書が支配。本らしい本を読む人は少ない。読書が消えた時代だ。静かだ。読書とは何かを「考える」時なのかも知れない」と言う言葉に導かれて、170年前の哲学者の声に耳を傾けると、今に通じる感慨が19世紀にも同じようにあったことが分かります。是非お勧めしたい1冊です。

管理室長：松田 和也さん

書名：『TED 驚異のプレゼン：人を惹きつけ、心を動かす9つの法則』

著者：カーマイン・ガロ(著)，土方 奈美(訳)

発行者：日経BP社

発行年：2014年

**おすすめポイント**：この本はいわゆるプレゼンのテクニック本ではないのですが、TEDのプレゼンターが採用している、プレゼンテーションの基本となる構成や話し方など、そのノウハウがぎっしり詰まったものです。

プレゼンをしたことのある人は、これまでの自分のプレゼンを客観視できると思います。この本を読んだからといって、すべての技術を身に付け、すぐにうまくプレゼンできるわけではありませんが、卒論発表等を行うにあたり、より良いプレゼンを目指していくうえで大変参考になります。

また、巻末には、本書に取り上げられたTEDの講演のURLが掲載されていますので、読み終わった後

にそれらを実際に見て見るのも楽しいと思います。

### 本学教員の出版図書のコーナーに寄贈をお願いします

図書館ロビーには、本学の教員が出版した本の展示コーナーがあります。学術書やテキスト・副読本、ブックレット等、ご出版の際にはぜひ一冊、図書館にご寄贈をお願いいたします。

### 2016年12月～2017年3月の図書館開館日のお知らせ

学期期間中は夜10時まで開館している図書館・看護棟図書室ですが、後期試験終了後から新年度開始までは午後5時までの開館となります。なお、12月28日(水)から1月3日(火)まで、年末年始ため休館します。その他、館内整備等による休館日を設けていますので、カレンダーをご参照の上、ご利用ください。また、開館日が変更となる場合がありますので、利用月のHPでご確認いただければ幸いです。

#### 2016年12月の開館日

● 休館日 ○ 特別利用

月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

#### 2017年1月の開館日

● 休館日 ○ 特別利用

月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

#### 2017年2月の開館日

● 休館日 ○ 特別利用

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

#### 2017年3月の開館日

● 休館日 ○ 特別利用

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

○ 特別利用は本学学生・教職員限定です。

※2016年12月27日(火)は図書館システムバージョンアップのため閉館します。

※2016年12月24日(土)～2017年1月5日(木)冬季休業中は土・日の特別利用はありません。

※2017年1月13日(金)は大学入試センター試験準備のため閉館します。

※2017年3月20日(月)～2017年4月4日(火)春季休業中は土・日の特別利用はありません。

## 図書費購入締切日について

今年度の図書購入締切日については次のとおりです。

図書購入(視聴覚資料も含む)	2017年1月31日(火)
雑誌購入(3月発行分は除く)	2017年2月28日(火)

毎年12月から1月にかけては図書購入が集中しますので、図書の備品登録作業にお時間をいただいております。

お急ぎの図書があれば、作業の順番が来るまで一度お手元にお返しいたしますので、お申し出ください。

教員の皆さまのご協力にあらかじめ感謝申し上げます。

## 親しみある図書館に

現在、図書館では第30回テーマ展示『本で愉しむ芸術の秋』を開催しています。絵画、音楽、伝統芸能等の芸術に関する小説、エッセイを並べています。秋はもう過ぎましたが、好評のため期間を延長しました。

また、平成28年度山口県大学ML連携特別展を開催しています。山口県大学ML(ミュージアム・ライブラリー)連携特別展では、山口県内の大学博物館・図書館が一定期間テーマを共通とした学術資料の展示を実施中です。今年度の展示テーマ「はぐくむ」にちなみ、当館では「寺内文庫に育まれた収蔵資料—異文化を理解する心をはぐくむ—」と題し、寺内文庫で発見されたパプアニューギニア原住民の楽器、装身具、道具を展示しています。

今後も展示企画を考えていきたいと思っております。

## 編集後記

早いもので今年も、残すところ一ヶ月となりました。

12月になると「あれもこれもしなければいけない」と気持ちだけが先走り、心なしか落ち着きがなくなるのは私だけでしょうか？

日頃はすんなりとすり抜けられたことでも、気持ちが焦っているとなかなか上手くいかず、また多忙なスケジュールで無理をすると疲れを伴い、体調を崩してしまうので要注意です。

さて『学術情報センターだより第2号』をたくさんの方々のご協力のもと、無事に発行することができました。ありがとうございました。

次号もセンターの動きとともに皆様に役立つ情報をお届けしますので、ぜひご期待ください。

(K. M)